

研究室訪問・意見交換会④（多文化社会学部）

5月11日（水）平和班の代表生徒6名と水班の代表生徒9名が長崎大学多文化社会学部を訪問し、小松准教授との意見交換会を行いました。宗教や災害に関する問題を中心に、平和や水に関する東南アジア諸国の事例をわかりやすく説明していただきました。生徒からの質問への回答を交えながら、開発途上国が抱える貧困問題、カースト制度、東南アジアでの洪水対策や生活排水の現状を多岐にわたってご教示いただきました。「研究視点はおもしろいので、今後テーマをしばらくこんでいくとよい」とのご助言をいただきました。



研究室訪問・意見交換会⑤（工学部）

5月10日（火）水班の代表生徒9名が長崎大学工学部を訪問し、冨田教授（副学長）との意見交換会を行いました。長崎大学がアフリカのビクトリア湖で取り組んでいる水質浄化プロジェクト（生態系の保護や水環境の再生、水質向上を通じ、周辺住民3万人の生活水準向上を目指すもの）の説明や、ベトナムのメコン川周辺の洪水問題等についての質問に回答していただきました。参加者からは「アフリカと日本との文化の違いや自然災害に対する考え方について知見を広げることができました」といった感想が聞かれました。



研究室訪問・意見交換会⑥（環境科学部）

5月10日（火）水班の代表生徒9名が長崎大学環境科学部を訪問し、井口教授と濱崎准教授との意見交換会を行いました。主に東南アジアの水事情、水環境や水質について説明していただきました。その中で、二枚貝の浄化作用や水上生活に関する生徒からの質問に回答していただきました。参加した生徒は「“透明な水＝水質がよくきれいな水”ではないというお話を聞き、衝撃を受けた。また新たな視点から水と向き合ってみたい」と述べていました。

